



### シリーズ版 ⑩

## 認知症の症状

### ～場合わせ・取り繕い～

「場合わせ・取り繕い」はアルツハイマー型認知症に多い症状です。

#### 4コマのおばあさんの場合

- 内容が曖昧、具体性がない  
(会話が進むにつれてつじつまが合わなくなってくる)
- 一見「認知症」だと気づかない



- ・ 認知症の人は、うそをつくつもりや悪気はありません
- ・ 以前の本人の言動と比較をしてみましょう

#### 気を付けたい接し方のポイント

### 取り繕っていると分かっても

### 責めたり否定はしないで

本人は、会話の内容は忘れても感情(こころ)は残っています。



## 認知症ほっとけんまちハンドブック

シリーズ版⑩ 令和3年10月発行

敦賀市 認知症サポーター数: 12,892人 (R3.8.31現在)

※ご依頼があれば、どこでも「認知症サポーター養成講座」を開催できます。長寿健康課までご連絡ください。

■過去に発行したものもご覧いただけます。  
■市ホームページよりご覧いただけます。

ほっとけんまちハンドブック

検索



QRは株式会社デンソーウェーブの登録商標です



# 認知症とともに生きる ～ほっとけんまちレポート②～

このコーナーでは、「認知症の方が自分らしく安心して暮らしていく」ことをテーマに、ご本人やご家族の体験や日頃感じておられる思いをお聞きしていきます。

介護保険サービスを利用しながら、在宅で自分らしい生活を続けているAさん(70歳代、女性)

3年前、今までできていた家事が徐々にできなくなってきたAさんの様子に家族が気づき、一緒に受診し、Aさんは、「レビー小体型認知症」の診断を受けました。

現在、要介護3の認定を受け、デイサービス(通所介護)を週6日利用しています。



大事にしていることは、その時その瞬間  
を楽しみ、うれしい出来事を増やす

娘さんは、最初の受診をした頃に、Aさんからもらった手紙を今も大事に持っています。

一人むすめの〇〇へ

お母さんはもう一人の人げんとして  
生活する事が出来ないので  
どこへでも捨ててください。



現在、Aさんは、気持ちを言葉にして表すことがだんだん難しくなっています。娘さんは、手紙を読み返し、Aさんが毎日不安でいっぱい思いで生活していることを忘れないようにしています。

そしてAさんが、毎日「楽しく」デイサービスに通い、その時その瞬間にひとつでも多く「うれしい出来事」が増えるよう、家族皆で見守っています。



娘さん

本人や家族と話し合いながら、これからも  
在宅生活を続けていきたい

休みの日は、家族とのドライブや親戚、知人との交流を楽しんでいます。自宅での生活は、地域の見守りの目も必要と感じています。

今は、仕事と介護、休息のバランスがとれていますが、今後、本人の病状の進行や家族の体調不良により、在宅生活が続けられなくなることも頭の隅に置いています。その時のために、今から本人や家族間で話し合いながら、担当ケアマネジャーに相談していきたいと思っています。

## 敦賀つながりカフェ

参加費無料

途中参加も途中退出もOK

誰でも参加できる、認知症や健康に関する情報交換、相談の場です。今回はその様子をご紹介します。

- 認知症の方への対応や予防等、分かりやすいミニ講座



- 参加者同士で情報交換。話を聞いてもらうだけで気持ちが軽くなることも



- 認知症関連の映画を見るときも



- 専門スタッフとの個別相談も受けられます



参加された方から…

- ここに来てたくさんお話できること、外に出ること自体が本人への刺激につながっていると思います。(家族の方より)
- ここではたくさんの人と出会い、色々な情報を得ることができる。貴重な時間です。(認知症サポーターの方より)
- 気が向いたらいつでも来てくださいね。待ってるよ。(参加者の方より)



☆次回は令和3年11月10日(水)13時半～ あいあいプラザで開催します。